

事後評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成27年7月24日（金）

研究課題	タケ資源の有効利用に関する研究	
研究期間	平成24年度～26年度	
	評価項目	平均点
	1 研究課題選定の妥当性	3.0
	2 目標の達成度	2.6
	3 研究成果の活用及び実用化の可能性	2.4
	4 今後の発展性	2.6
	5 総合評点	2.7
<p>需要の減少による竹の放置に対する竹林の効果的な利用法の研究である。他の地域においても対策が練られており、全国的にも関心が示されている課題である。</p> <p>タケチップ利用の有効性がいくつかの用途で示されたが、採取されたタケサイレージの機能（生体への作用）が不明確などタケ素材の有利な点あまり明確でなく、製造コストを考慮した場合に今後もタケ素材を使用していく理由付けが難しい。</p> <p>研究目標はタケ資源の具体的な活用方法を定めることにあると思われるので、タケ資源の使用の単なる可能性を調べることでなく、具体的な目標とそれに達する明確な計画を策定する必要がある。</p> <p>最終的に竹の利用の拡張はこの段階では見当たらないと言ふべきではないか。タケ資源の有効利用には、竹炭やタケノコの利用など別の方向からアプローチする必要があると思われる。</p>		